

2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社イーエムシステムズ
コード番号 4820 URL https://emsystems.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 國光 宏昌
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 経営戦略本部長 (氏名) 小林 大悟 TEL 06-6397-1888
半期報告書提出予定日 2025年8月8日 配当支払開始予定日 2025年9月3日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	12,149	10.6	2,080	70.4	2,400	55.8	1,603	62.6
2024年12月期中間期	10,989	11.9	1,221	6.7	1,540	10.5	985	24.9

(注) 包括利益 2025年12月期中間期 1,601百万円 (52.2%) 2024年12月期中間期 1,051百万円 (20.4%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	23.18	23.10
2024年12月期中間期	14.00	13.96

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期中間期	28,991	20,495	70.4	294.77
2024年12月期	31,669	20,619	64.8	297.04

(参考) 自己資本 2025年12月期中間期 20,405百万円 2024年12月期 20,534百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	9.00	—	26.00	35.00
2025年12月期	—	17.00			
2025年12月期(予想)			—	18.00	35.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,740	△12.5	2,522	△43.5	3,154	△39.2	1,854	△23.5	26.82

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (中間期)

2025年12月期中間期	70,514,800株	2024年12月期	70,514,800株
2025年12月期中間期	1,290,594株	2024年12月期	1,384,894株
2025年12月期中間期	69,161,339株	2024年12月期中間期	70,405,644株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、為替相場の変動やエネルギー・原材料価格の高止まりや通商政策など国際情勢の変化が世界経済に影響が高まっており、企業収益に影響を与える状況への注視が必要となっております。

当社グループの主要取引先である医療業界におきましては、「医療DX令和ビジョン2030」等に基づいた、医療DXによる効率化や適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上と各種診療報酬改定により、医療介護従事者の人材確保や賃上げに向けた取組が実施されております。

当社グループにおきましては、医療DXやイノベーションの推進等による質の高い医療の実現に向けた取り組みを継続しており、「医療DX令和ビジョン2030」によるオンライン資格確認システム運用対象範囲の拡大、電子処方箋の推進普及にあわせ、オンライン資格確認システムの医療扶助への対応、電子処方箋の導入設置を順次拡大し、当中間連結会計期間の導入設置件数は想定を上回ったものとなりました。

また、当社グループの各セグメント事業におきましては、2024年に策定された「中期経営計画FY2025～FY2027」に基づき、より効率的に案件の創出に繋げるため、従来の対面型中心の営業からインサイドセールスを強化した営業活動に加え、製品力や収益性の向上を企図した組織編成や、Webサイトリニューアル、MAツール活用、デジタルコンテンツ強化等マーケティングミックスの改善により、潜在的な案件獲得も続けております。当中間連結会計期間においては、オンライン資格確認システムの医療扶助への対応と電子処方箋の導入等医療DXへの対応が加速度的に進み前倒しで進捗したことにより、売上高及び営業利益は増加しました。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高12,149百万円（前年同期比10.6%増）、営業利益2,080百万円（同70.4%増）、経常利益2,400百万円（同55.8%増）、親会社株主に帰属する中間純利益1,603百万円（同62.6%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

(調剤システム事業)

調剤システム事業につきましては、組織体制の変更により初期システムの売上高が増加したことに加え、オンライン資格確認システム関連オプションソフトの導入が堅調に推移したことにより、セグメントの売上高と営業利益はともに増加しました。

この結果、当中間連結会計期間の調剤システム事業は、売上高9,885百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益2,124百万円（同26.1%増）となりました。

(医科システム事業)

医科システム事業につきましては、組織体制の再構築に加え、デジタルマーケティングを活用し幅広いアプローチを行ったことに加え、電子処方箋の導入設置が大幅に進捗したことによりセグメントの売上高と営業利益はともに増加しました。

この結果、当中間連結会計期間の医科システム事業は、売上高1,497百万円（前年同期比25.0%増）、営業利益80百万円（前年同期営業損失306百万円）となりました。

(介護/福祉システム事業)

介護/福祉システム事業につきましては、2025年の介護報酬改定の影響を受け、「響・シンフォニー」から「MAPs for NURSING CARE」へのリブレイスを前倒しで推進し、一部ライセンス数が減少し、課金売上高及び保守売上高の減少に繋がりました。一方、昨年度に減損を実施したことによりセグメント減価償却費は減少、また、セグメントにおけるコスト削減を実施したことにより営業損失は前年同期比で小幅に改善しました。なお、「MAPs for NURSING CARE」による課金売上高は着実に増加しております。

この結果、当中間連結会計期間の介護/福祉システム事業は、売上高262百万円（前年同期比7.5%減）、営業損失169百万円（前年同期営業損失229百万円）となりました。

(その他の事業)

その他の事業につきましては、チョキ株式会社の業績が伸長した一方で、昨年度に益盟軟件系統開発(南京)有限公司の個別新機能開発及び法改正有償対応が一巡したことにより、売上高は横ばいであったものの、営業利益は減少しました。

この結果、当中間連結会計期間のその他の事業は、売上高571百万円（前年同期比0.2%減）、営業利益23百万円（同42.7%減）となりました。

(上記セグメント別の売上高及び営業利益（損失）は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。)

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は15,814百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,535百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が1,203百万円減少し、受取手形及び売掛金が1,028百万円減少したことによるものであります。固定資産は13,177百万円となり、前連結会計年度末に比べ142百万円減少いたしました。これは主に、償却に伴いソフトウェアが189百万円、のれんが96百万円それぞれ減少したものの、投資不動産が144百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は28,991百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,677百万円減少いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は6,986百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,085百万円減少いたしました。これは主に、未払金が888百万円、未払法人税等が714百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は1,509百万円となり、前連結会計年度末に比べ468百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金が416百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は8,496百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,554百万円減少いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は20,495百万円となり、前連結会計年度末に比べ123百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が190百万円減少し、自己株式が52百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.4%(前連結会計年度末は64.8%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期通期の連結業績予想については、2025年2月14日の「2024年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,884	10,681
受取手形及び売掛金	4,293	3,265
棚卸資産	889	561
その他	1,283	1,313
貸倒引当金	△2	△7
流動資産合計	18,349	15,814
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	449	478
土地	348	348
リース資産(純額)	22	7
その他(純額)	419	322
有形固定資産合計	1,241	1,158
無形固定資産		
ソフトウェア	1,091	902
ソフトウェア仮勘定	30	15
のれん	1,265	1,169
その他	1,107	1,077
無形固定資産合計	3,494	3,164
投資その他の資産		
投資有価証券	906	1,049
投資不動産(純額)	6,268	6,412
その他	1,424	1,405
貸倒引当金	△14	△12
投資その他の資産合計	8,584	8,855
固定資産合計	13,320	13,177
資産合計	31,669	28,991

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,376	1,413
未払金	2,217	1,329
1年内返済予定の長期借入金	833	833
リース債務	37	0
未払法人税等	1,584	869
賞与引当金	555	429
契約負債	840	891
その他	1,628	1,220
流動負債合計	9,072	6,986
固定負債		
長期借入金	569	152
リース債務	0	0
退職給付に係る負債	137	131
製品保証引当金	1	1
長期末払金	193	193
長期預り保証金	778	777
その他	296	252
固定負債合計	1,977	1,509
負債合計	11,050	8,496
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,785	2,785
資本剰余金	2,486	2,502
利益剰余金	15,813	15,622
自己株式	△763	△711
株主資本合計	20,320	20,199
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45	98
為替換算調整勘定	168	107
その他の包括利益累計額合計	213	205
新株予約権	55	55
非支配株主持分	29	35
純資産合計	20,619	20,495
負債純資産合計	31,669	28,991

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	10,989	12,149
売上原価	5,427	5,949
売上総利益	5,561	6,200
販売費及び一般管理費	4,340	4,119
営業利益	1,221	2,080
営業外収益		
受取利息	6	3
不動産賃貸収入	527	536
その他	20	5
営業外収益合計	553	545
営業外費用		
支払利息	5	3
不動産賃貸費用	196	221
その他	31	1
営業外費用合計	233	226
経常利益	1,540	2,400
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除却損	47	7
減損損失	-	99
特別損失合計	47	107
税金等調整前中間純利益	1,492	2,293
法人税等	489	684
中間純利益	1,003	1,608
非支配株主に帰属する中間純利益	17	5
親会社株主に帰属する中間純利益	985	1,603

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益	1,003	1,608
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24	53
為替換算調整勘定	73	△60
その他の包括利益合計	48	△7
中間包括利益	1,051	1,601
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,034	1,595
非支配株主に係る中間包括利益	17	5

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2024年1月1日至2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額
	調剤システム事業	医科システム事業	介護／福祉システム事業	その他の事業	計		
売上高							
初期売上	4,065	664	37	—	4,766	—	4,766
課金売上	3,429	443	124	—	3,997	—	3,997
サブライ売上	1,033	25	0	—	1,058	—	1,058
保守売上	476	65	121	—	664	—	664
その他の事業売上	—	—	—	502	502	—	502
顧客との契約から生じる収益	9,004	1,198	283	502	10,989	—	10,989
外部顧客への売上高	9,004	1,198	283	502	10,989	—	10,989
セグメント間の内部売上高又は振替高	9	—	—	70	79	△79	—
計	9,013	1,198	283	572	11,069	△79	10,989
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	1,684	△306	△229	40	1,188	32	1,221

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、主にセグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自2025年1月1日至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額
	調剤システム事業	医科システム事業	介護/福祉システム事業	その他の事業	計		
売上高							
初期売上	4,961	965	43	—	5,971	—	5,971
課金売上	3,572	472	115	—	4,160	—	4,160
サブライ売上	1,034	28	—	—	1,063	—	1,063
保守売上	307	31	103	—	442	—	442
その他の事業売上	—	—	—	512	512	—	512
顧客との契約から生じる収益	9,876	1,497	262	512	12,149	—	12,149
外部顧客への売上高	9,876	1,497	262	512	12,149	—	12,149
セグメント間の内部売上高又は振替高	9	—	—	59	68	△68	—
計	9,885	1,497	262	571	12,218	△68	12,149
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	2,124	80	△169	23	2,059	21	2,080

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、主にセグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「医科システム事業」及び「介護/福祉システム事業」セグメントにおきまして、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間において「医科システム事業」19百万円、「介護/福祉システム事業」80百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。